



夢の乗り物の最後の日

夢列車の終点

平野 越之

一九九一年三月に開業した桃花台線(通称ピーチライナー)。当時、最新の技術を結集させた「夢の乗り物」だった。

十五年間無事故という実績をのこしながらも不況の波に負けて多額の累積赤字を残し小牧から姿を消した。

廃線の日の午後五時三十分、小牧駅入り口のドアが開くと、乗り放題フリー乗車券「ありがとうピーチライナー」を求める二五人の列が一気に切符売り場へ動き出した。中には愛知県外から来た鉄道ファンもいた。これを見て始発の運転士の方は「始発はいつも一人くらいなのでびっくり。しっかり運転したい。」と寂しそうに話していた。

一方桃花台ニュータウンの住民たちは見納めと盛り上がりつつある鉄道ファンを冷たい表情で見ている、生活への不安を募らせるばかりである。しかし中には「いつまでもあるものと思っていたけど、いざなくなってみるとさみしいね。」とつぶやく人もいたそうだ。

ピーチライナーは小牧の象徴的存在だったから、さみしいと思ったのは彼らや僕など少人数ではなかったであろう。